

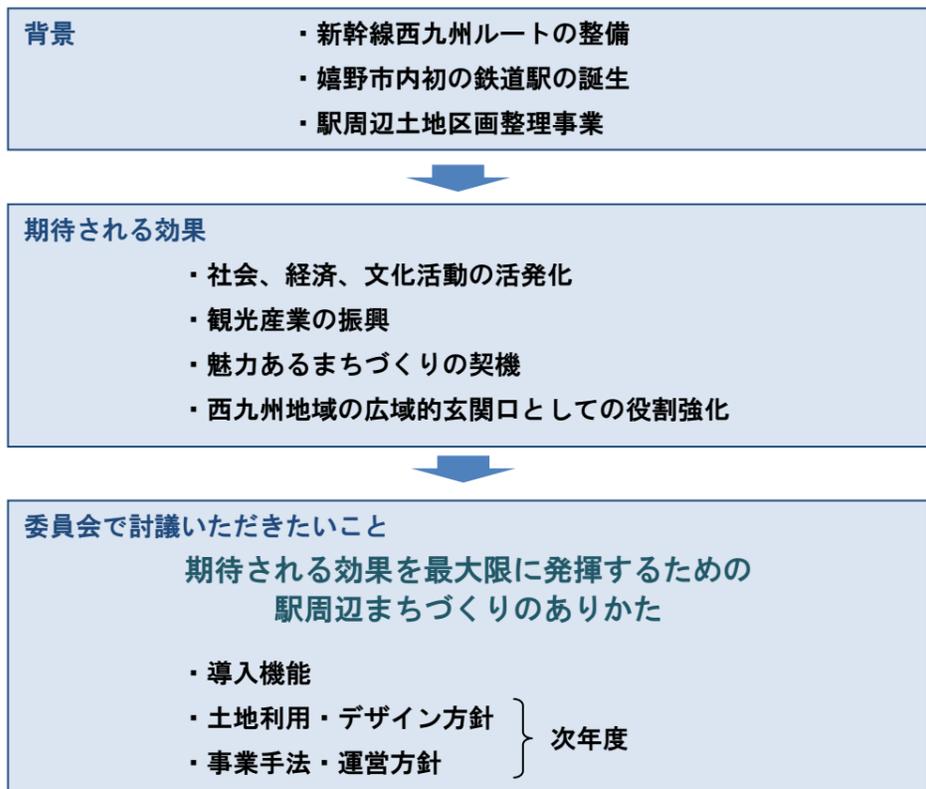
# 嬉野温泉駅周辺まちづくり委員会

## 第1回委員会資料

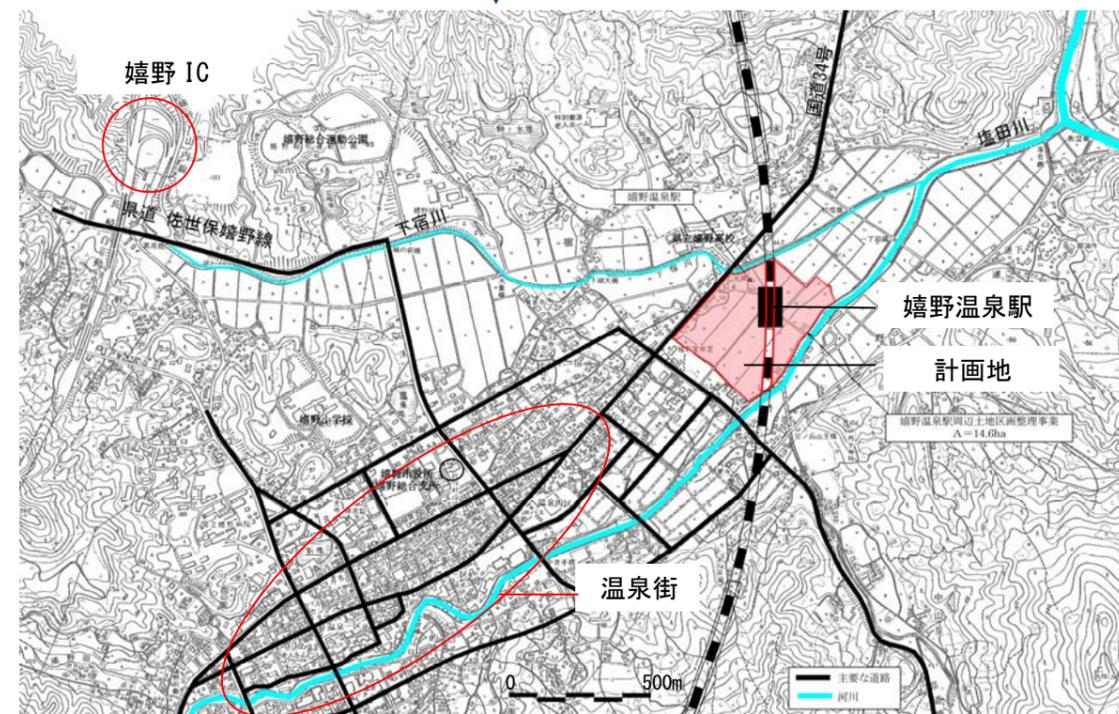
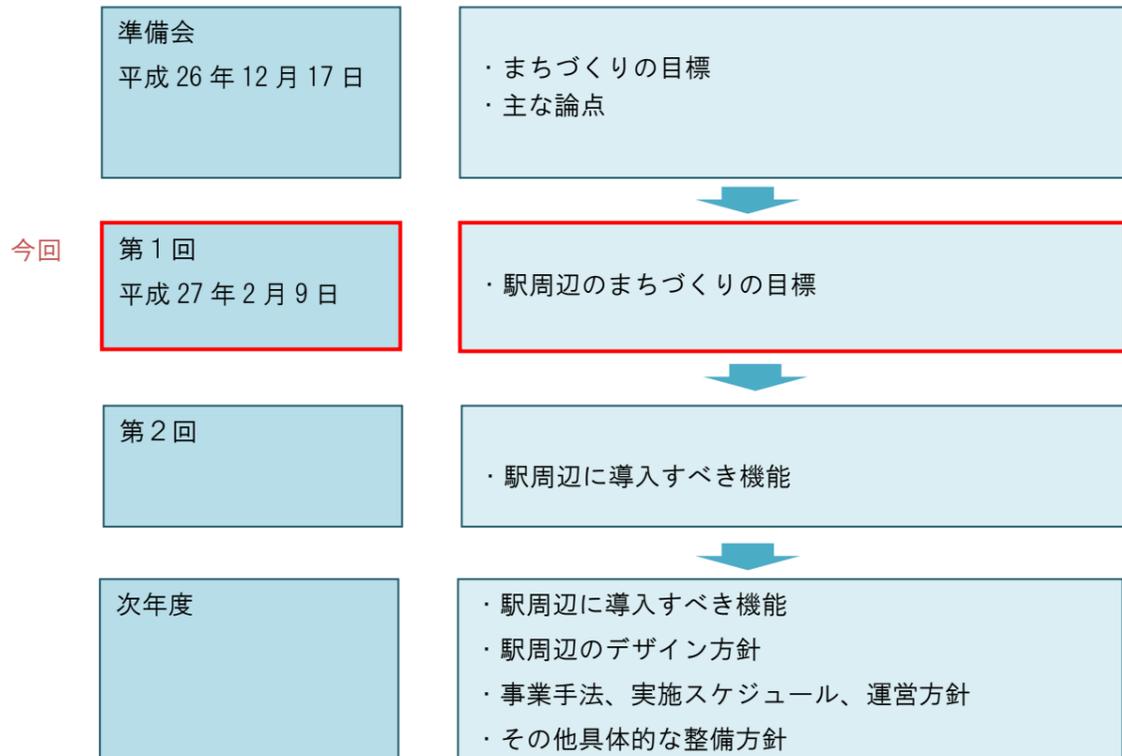
平成27年 2月 6日

# I 検討の目的とスケジュール

## 1. 検討の目的



## 2. 委員会のスケジュール



計画地位置図

## II 嬉野市の概要

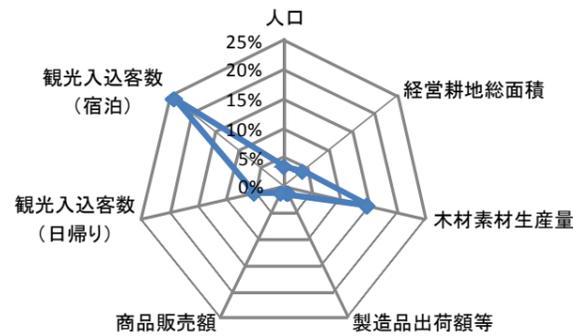
### 1. 産業

- ・工業出荷額、商品販売額とも県内での割合は低く、観光産業の位置づけが大きい。
- ・特に宿泊客数の県内シェアは突出しており、宿泊観光地としては佐賀県随一といえる。

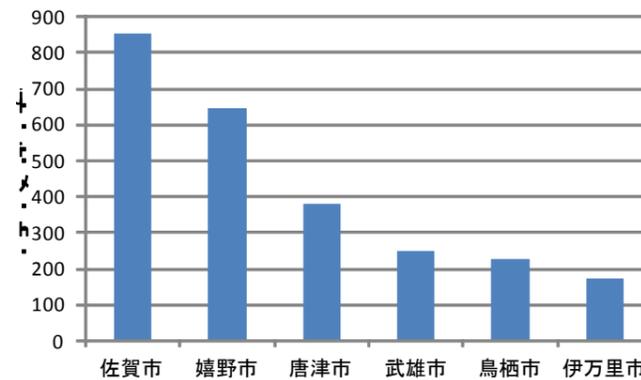
産業に関する主要指標

	実績値	県内市町における順位	県内シェア	出典
人口	28,984人	9位	3.4%	国勢調査（平成22年）
経営耕地総面積	1,945ha	9位	4.1%	農林業センサス（平成22年）
木材素材生産量	9,770m <sup>3</sup>	3位	14.7%	農林業センサス（平成22年）
製造品出荷額等	218億円	17位	1.4%	工業統計調査（平成22年）
商品販売額	227億円	13位	1.2%	商業統計調査（平成19年）
観光入込客数（日帰り）	140万人	6位	5.2%	佐賀県統計年鑑（平成25年）
観光入込客数（宿泊）	65万人	2位	24.0%	佐賀県統計年鑑（平成25年）

嬉野市の県内シェア



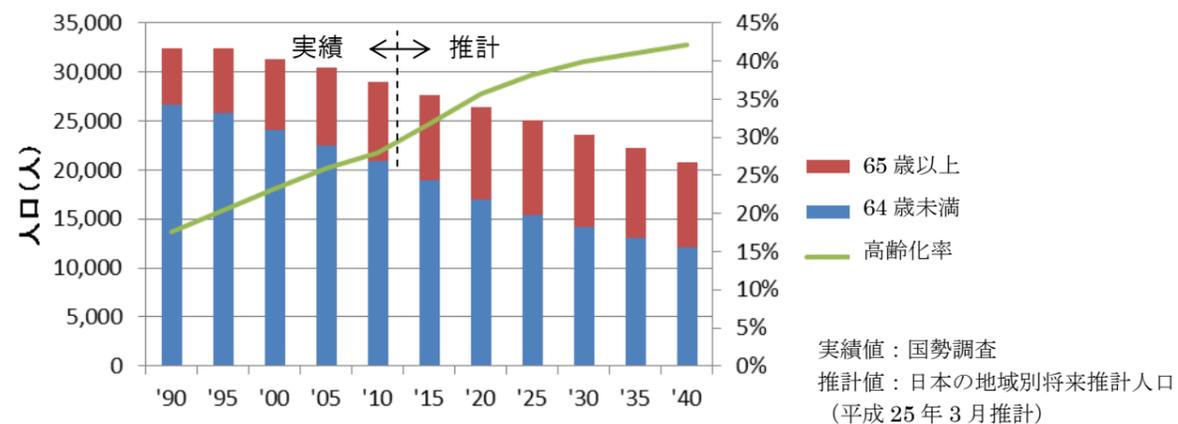
年間宿泊観光客数



### 2. 人口推移

- ・嬉野市の人口は減少傾向にあり、現状のまま推移すると平成52年（2040年）には約2万人になると推計されている。
- ・一方高齢人口は増加しており、平成52年（2040年）には高齢化率42%と推計されている。

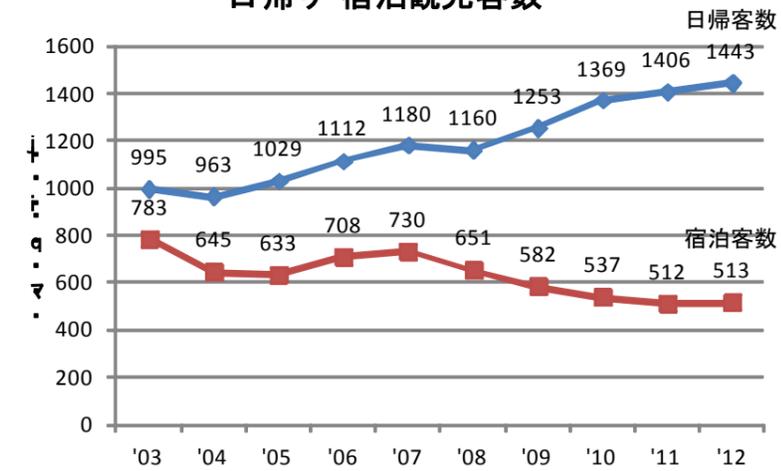
人口推移



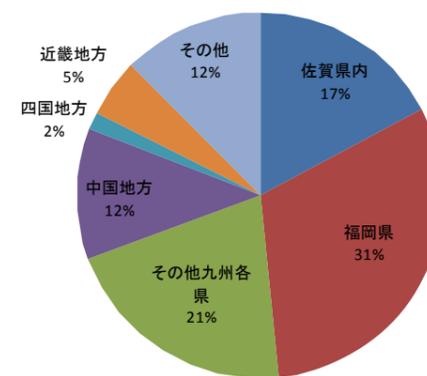
### 3. 観光客の動向

- ・宿泊客数は減少傾向にあり、日帰り観光客が増加している。
- ・九州圏内からの観光客が約7割を占める。
- ・外国人観光客は年間約1.2万人で、宿泊客の約2%を占める。韓国からの客が圧倒的に多い。
- ・観光消費額の中では宿泊費が最も多い。
- ・利用交通手段は自家用車・タクシーが最も多い。

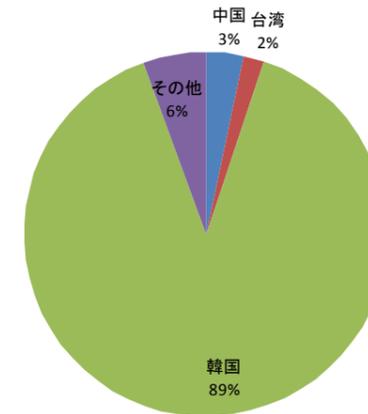
日帰り・宿泊観光客数



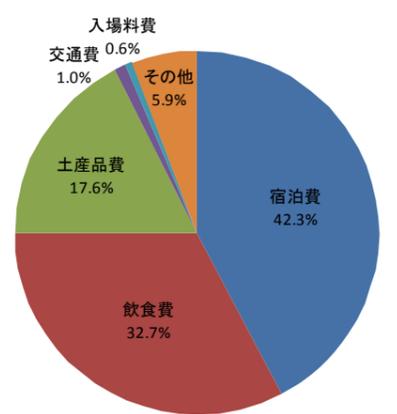
発地別観光客数



外国人観光客数(宿泊)

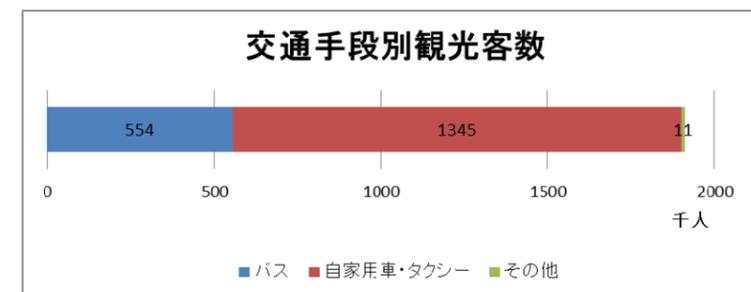


観光消費額の内訳



出典：嬉野市市政要覧（平成25年）

交通手段別観光客数



出典：嬉野市都市計画マスタープラン（平成24年）

#### 4. おもな観光資源

- ・嬉野市周辺には有田、波佐見、伊万里、武雄、唐津、佐世保などの観光地が集まっている。
- ・長崎自動車道に加えて新幹線が整備されることで、広域圏における重要な地位を担うことが期待される。
- ・長崎自動車道と新幹線がほぼ並行して走る。嬉野市街地までの距離は、嬉野温泉駅から約1km、嬉野ICから約2kmである。
- ・市内の主要な観光ポイントとして、嬉野エリアではシーボルトの湯、肥前夢街道など、塩田エリアでは塩田津の町なみなどが挙げられる。
- ・特産品としては、温泉湯豆腐、うれしの茶、肥前吉田焼、地酒などがある。



ハウステンボス

武雄温泉

有田焼

祐徳稲荷神社

周辺地域の主な観光資源

写真出典：MAPPLW 観光ガイド



肥前夢街道

轟の滝

茶畑

シーボルトの湯



肥前吉田焼窯元会

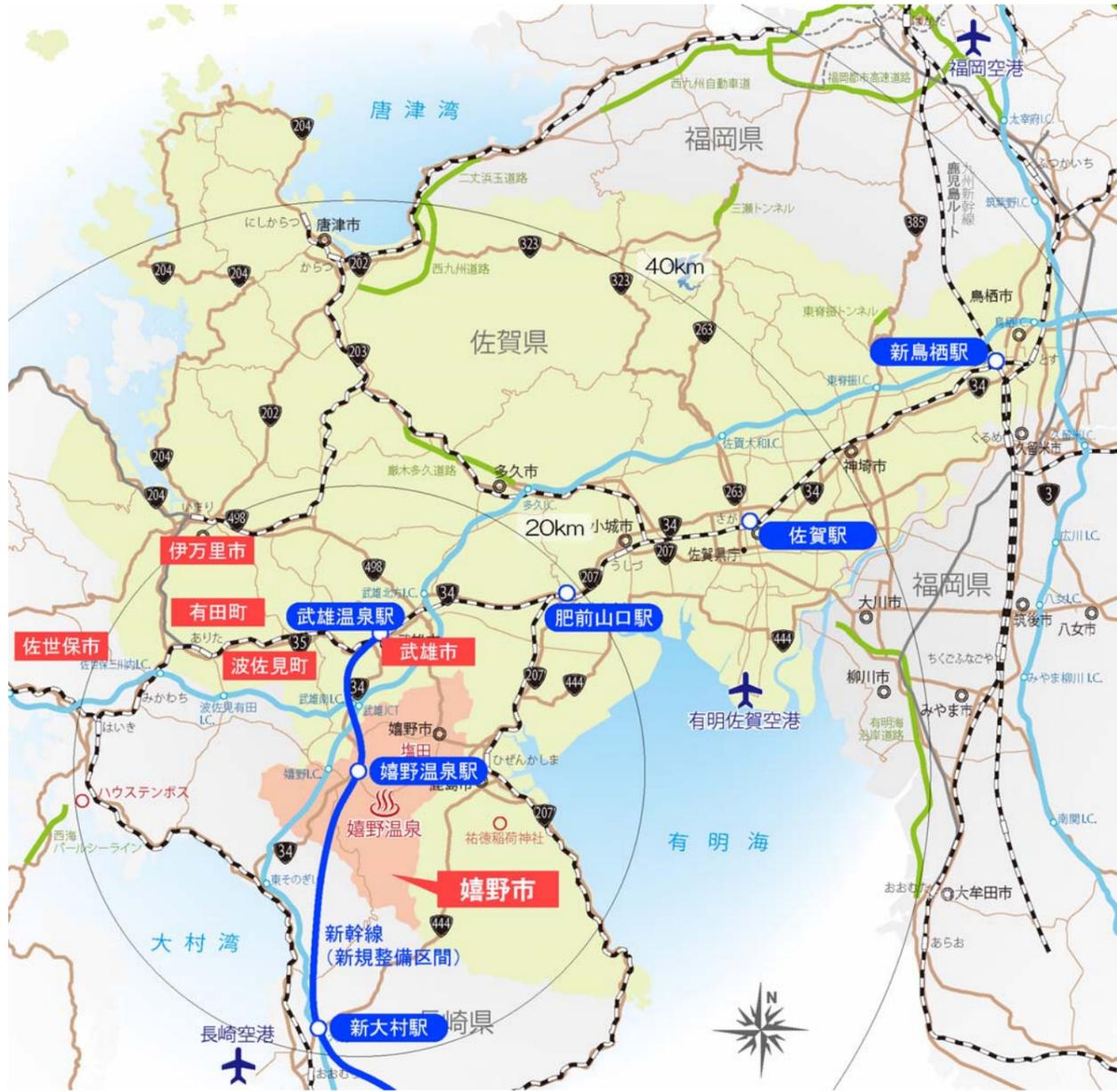
志田焼の里博物館

塩田津の町なみ

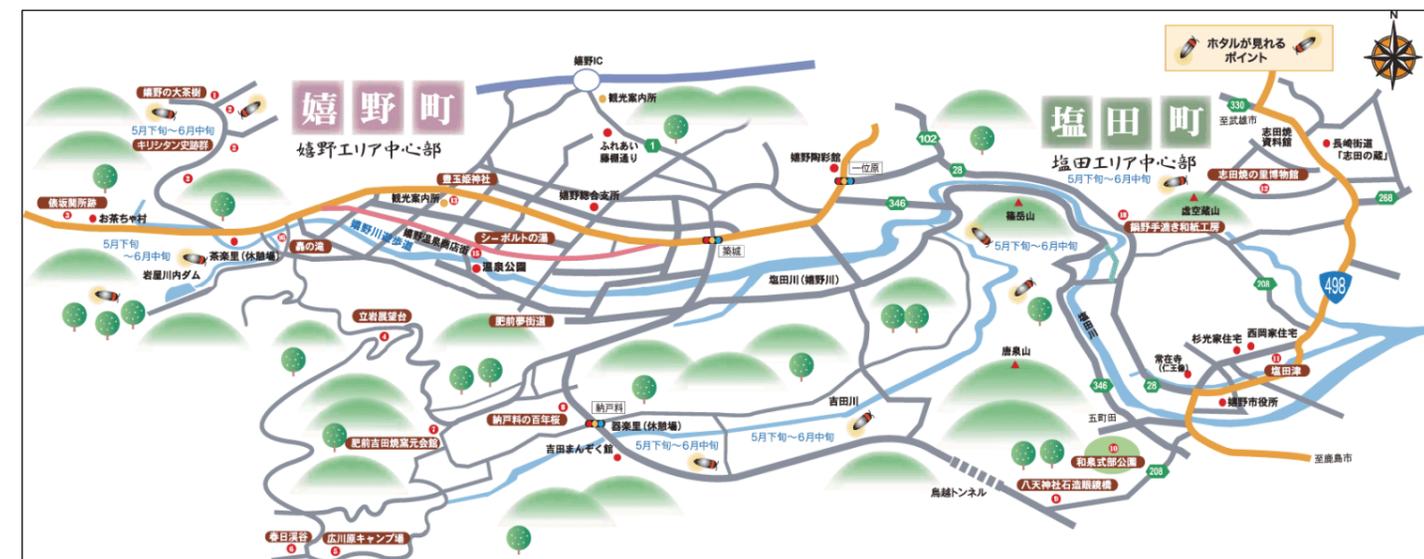
瑞光寺

市内の主な観光資源

写真出典：嬉野ぶらり本



「うれしのほほん」記載地図に加筆



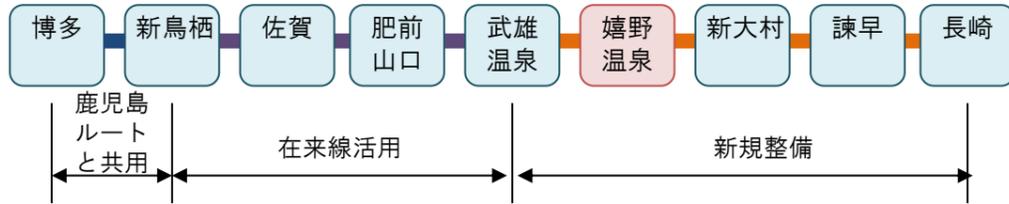
市内観光マップ

出典：嬉野市ホームページ

### Ⅲ 既往計画

#### 1. 新幹線西九州ルート

- 博多～長崎間最速 80 分（かもめより約 28 分短縮）
- 武雄温泉～長崎間は平成 34 年度開通予定
- 嬉野温泉駅には新幹線の半数程度が停車。1 時間に上下各 1 本程度。
- 嬉野温泉駅の乗降客数は 2,100 人/日と想定（新幹線嬉野温泉駅周辺整備基本計画による）。



事業スケジュール

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
新幹線	高架設計等	用地測量	用地買収・建物補償	高架本体工事・軌道工事・駅舎建設工事							試運転	開業(予定)
土地区画整理事業	農政局・整備局協議	都市計画決定 農振除外 国土利用計画 区画整理事業認可	仮換地指定	調査・測量・設計								
	用地買収・建物補償		調整池工事・道路工事・整地工事等		整地工事・公園工事・緑地工事等		駅前広場・駐車場整備					
医療センター	協定調印		設計・工事						開院(予定)			
施設	整備・運営計画等						設計・工事等				開業(予定)	

▲ 本年度

#### 2. 嬉野市総合計画後期基本計画（平成 26 年）

○まちづくりの将来像：歓声が聞こえる嬉野市

○まちづくりの基本目標

- 世代をこえて住み続けるまち
- 個性輝く魅力あふれるまち
- 活力のある自治先進のまち
- みんなで創る自立のまち

○土地利用の基本方針

- 美しい自然環境、農業的土地利用の保全と有効活用
- 貴重な歴史的資源・文化的景観の保全と環境形成
- 九州新幹線西九州ルートの整備効果を活かした魅力ある市街地形成と保養型・滞在型・体験型の健康保養地形成

#### 3. 嬉野市都市計画マスタープラン（平成 24 年）

○基本理念：集約と連携による新しい嬉野市の構築

○都市の将来像：誘う・魅せる・親しむまち

○基本目標

- 「誘う」広域交流における佐賀南部集客 No.1 のまち
- 「魅せる」独自の新たな価値を生み出すまち
- 「親しむ」市民力により地域の特性が輝くまち

○市街地整備の方針

- 温泉市街地の観光交流機能の再構築に向けた交流機能拠点
- 新たな都市交流拠点の形成に向けた高次都市機能の集積核
- 温泉市街地の広域拠点性維持に向けた高次都市機能拠点
- 観光地の安心・安全と交流を支える都市機能拠点
- 地域の伝統や生活文化と観光を繋ぐ文化交流機能拠点

○嬉野市街地地域

地域の生活文化と非日常の都市魅力が融合し、社会的・文化的価値を生み出す交流のまち

- 交流を軸とした嬉野の発展の核となるまちづくり
- 文化的・知的好奇心に応える観光のまちづくり
- 温泉街に息づく生活文化を育てるまちづくり



まちづくり方針図（嬉野市街地地域）

#### 4. 嬉野温泉駅周辺整備基本構想（平成 21 年）・基本計画（平成 22 年）

○まちづくりのテーマ

- 嬉野市全体のテーマ：来ても住んでも嬉しくなる「もてなしと交流のまちづくり」
- 駅周辺のテーマ：人・もの・情報がふれあう「もてなし交流拠点」

○基本方針

- 西九州地域の新たな玄関口
- 生活文化を醸成・創造する交流空間づくり
- 市街地との役割分担・連携
- ユニバーサルデザインによるまちづくり
- 市民・事業者・行政による協働のまちづくり

○導入機能（案）

- 交通結節機能
- 情報機能
- 地域振興機能
- 交流・連携機能
- 癒し・休憩機能
- 居住機能



整備イメージ図

#### 5. 嬉野医療センター移転

- 県南西部の広域拠点医療機関
- 424 床、21 科の診療科目の他、地域医療連携、総合リハビリテーション、研修機能を有する
- 駅周辺に移転が決定。今年度基本設計



嬉野都市計画事業 嬉野温泉駅周辺土地区画整理事業 土地利用計画図 S=1:2,000

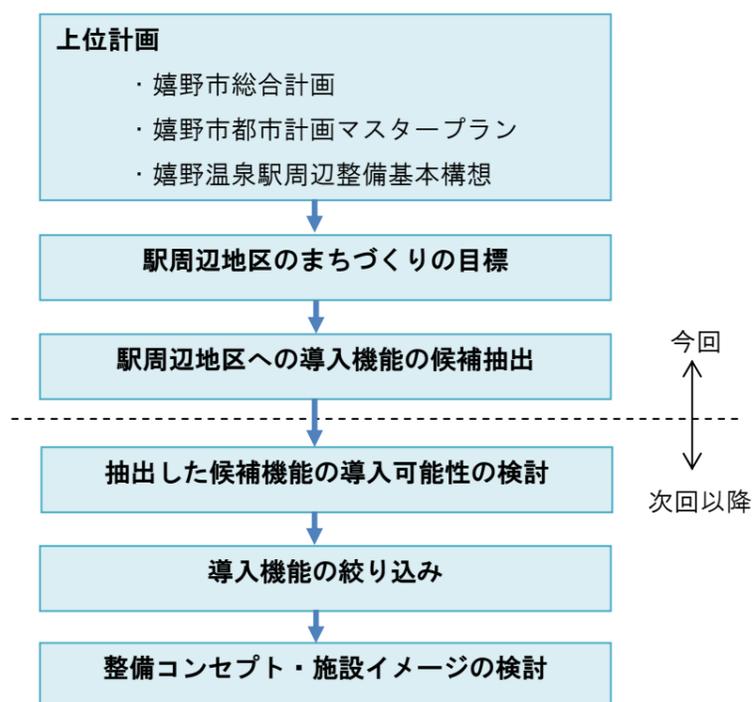


\*本委員会では、駅周辺まちづくり全体の方向性を検討しつつ、特に公益施設のありかたに重点を置く

\*道路位置は確定。医療センター以外の用地の配置は変更可能

## IV 駅周辺まちづくりの目標（案）

### 1. 検討の手順



### 2. 上位計画から導かれる駅周辺まちづくりの目標

嬉野市総合計画後期基本計画における嬉野市の土地利用方針  
九州新幹線西九州ルート<sup>1</sup>の整備効果を活かした魅力ある市街地形成と保養型・滞在型・体験型の健康保養地形成

#### 上位計画における駅周辺地区の位置づけ

##### 嬉野市都市計画マスタープランにおける駅周辺地区の整備方針

###### 新たな都市交流拠点の形成に向けた広域生活圏機能の集積核

- 交通結節点機能の整備、嬉野医療センターの誘致、交流センターの整備等をまちづくりの核とし、広域生活圏機能の集積核の形成と、広域連携拠点にふさわしい顔づくりを推進
- 嬉野医療センターの立地をふまえた企業誘致活動を推進
- 都市の顔にふさわしい開発・土地利用等と町なみ環境づくり

##### 嬉野温泉駅周辺整備基本構想・基本計画におけるまちづくりのテーマ

人・もの・情報がふれあう「もてなし交流拠点」

#### 駅周辺まちづくりの目標

交流機能の充実によって嬉野市全体の発展に寄与する

### 3. 駅周辺地区への導入機能の候補抽出

#### 嬉野市における交流機能展開の方向性

嬉野市が目指す「交流」（嬉野市総合計画「施策の体系」抜粋）

##### ●もてなしの心で結ぶ交流のまち

###### 1. 観光・交流の活性化

- 新幹線開業に向けた体制整備、強化
- 各種会議、大会等の誘致促進
- 東アジア観光・産業戦略の推進
- ひとにやさしい観光地づくり

###### 2. ひとにやさしいまちづくり

###### 3. 地域内外との交流

- 多種多様な地域内外交流の推進
- 国際交流活動の推進
- 国際性豊かな人材の育成
- 外国人が活動しやすいまちづくり

###### 4. 広域交通ネットワーク

- 西九州地域の新たな玄関口の形成
- 嬉野市街地との連携強化
- 新幹線を活かしたまちづくり

#### 市として充実していくべき交流機能

- 観光客を主な対象とした交流機能
- コンベンション、スポーツ、医療・福祉・健康などを目的とした、新たな客層を中心とした交流機能
- 市民を主な対象とした交流機能
- 広域交通の結節点としての交流機能

#### 嬉野市の交流機能の優位性と課題

	観光客を主な対象とした交流機能	コンベンション、スポーツ、医療等新たな客層を中心とした交流機能	市民を主な対象とした交流機能	広域交通の結節点としての交流機能
優位性（強み）	<ul style="list-style-type: none"> <li>美肌の湯、嬉野茶等の資源</li> <li>豊かな自然環境</li> <li>高速道路、新幹線によるアクセス</li> <li>市外の周辺観光地の集積</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>温泉を中心とした観光資源</li> <li>医療センターの存在</li> <li>スポーツ大会・合宿等の実績</li> <li>充実した屋外スポーツ施設</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>高速道路、新幹線によるアクセス</li> <li>国道34号で周辺観光地と接続</li> </ul>
課題（弱み）	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内に立寄りポイントが少ない</li> <li>宿泊客の行動が旅館内で完結し、町に人が出ていかない</li> <li>安く泊まれる施設が少ない</li> <li>歓楽街的イメージ 乱雑な景観</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンベンション、屋内スポーツ等に対応できる施設の不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存施設の老朽化</li> </ul>	

優位性をさらに伸ばし、課題解決に寄与するような駅周辺地区の交流機能のありかた

#### 駅周辺地区への導入が考えられる交流機能候補

##### 観光拠点

- 地域特性を活かした物販・飲食施設
- 温泉や嬉野茶等を紹介する博物館等の施設
- 足湯、湯治の湯などの体験施設
- 多様なイベントを行える広場
- 従来とは異なる客層を対象とした宿泊施設 等

##### コンベンション・スポーツ・医療福祉拠点

- 会議場等のコンベンション施設
- スポーツ合宿をターゲットにした屋内スポーツ施設
- 医療センターと連携した医療・福祉・健康づくり施設 等

##### 市民の交流拠点

- 集会、イベント等が可能なホール、コミュニティセンター等の施設
- 市民を対象とするスポーツ・健康づくり施設 等

##### 交通拠点

- 駅と温泉街を結ぶ二次交通機能
- 観光案内施設 等

〔参考資料〕

1. 駅前における需要見直し

(1) 新幹線乗降客

・嬉野温泉駅の乗降客数は2,100人/日、うち嬉野市への来訪者の乗降は約1,200人/日と推計されている。(新幹線嬉野温泉駅周辺整備基本計画 H22による)

目的地	地域住民	来訪者	計
嬉野市	397	1,198	1,595
鹿島市・太良町	68	21	89
波佐見町・川棚町・東彼杵町	413	19	432
合計	878	1238	2,116

・乗降客数が嬉野温泉駅と同程度で、既成市街地から離れている駅では、都市機能集積が進んでいない事例が多く、新幹線乗降客のみを対象とした観光客向け施設の立地は厳しいと考えられる。

駅名	くりこま高原駅(東北)	水沢江刺駅(東北)	新花巻駅(東北)
開業年	1990年	1985年	1985年
乗降客数	2,200人/日	2,100人/日	2,000人/日

駅名	上毛高原駅(東北)	本庄早稲田駅(東北)	安中榛名駅(上越)
開業年	1982年	2004年	1997年
乗降客数	1,500人/日	4,300人/日	550人/日

駅名	新玉名駅(九州)	新八代駅(九州)	新水俣駅(九州)
開業年	2011年	2004年	2004年
乗降客数			

乗降客数：JR 東日本ホームページ (2013年)  
航空写真：Google

(2) 道路によるアクセス

・計画地西側に隣接する国道34号は広域幹線道路であり、武雄、波佐見、有田、伊万里、大村などの町と直結している。  
・道の駅設置の目安が5,000台/日であるのに対して国道34号の交通量は約10,000台/日であることや、競合としては約10km離れた位置に道の駅が2店舗存在する程度であることから、道路によるアクセス客を対象とした商業施設立地の可能性はあるといえる。



広域交通網

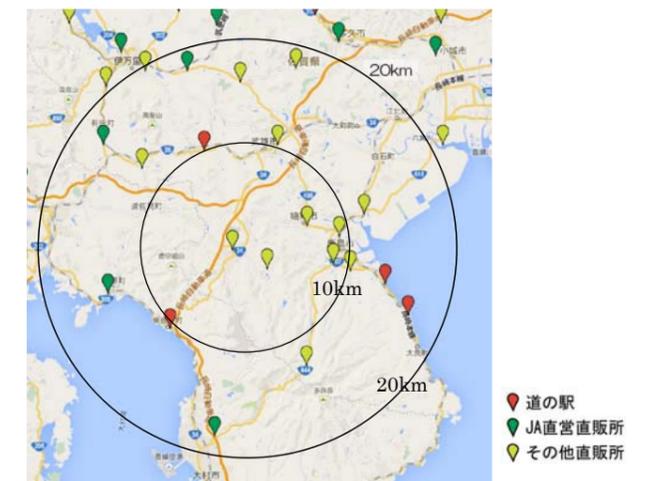
国道34号の交通量

24時間交通量	13,324台
12時間交通量	10,341台
12時間大型車混入率	10.7%
混雑度	0.94
混雑時旅行速度	36.9km/h



交通量観測地点

資料：平成17年度道路交通センサス



道の駅の分布

資料：新幹線嬉野温泉駅周辺施設整備詳細計画

### (3) 医療センター関連客

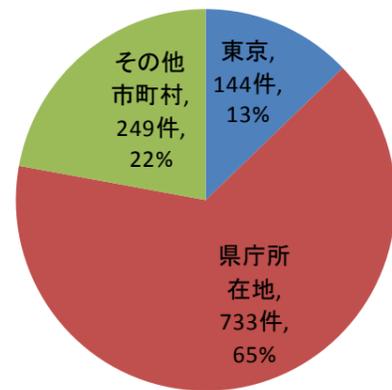
- ・一般に、病院周辺には薬局の立地は見込めるものの、飲食店等の立地は少ない。外来患者や見舞客の一定数の来訪は見込まれるものの、病院への来訪客のみを対象とした施設の立地は厳しい。

医療センター概要（平成 25 年度）

病床数	424 床
1 日平均外来患者数	563 人
1 日平均入院患者数	378 人
看護学校定員	40 名×3 学年

### (4) コンベンション需要

- ・国際会議統計によれば、参加者数 200 名以下の比較的小規模な国際会議であっても、約 8 割は東京または県庁所在地で開催されている。
- ・九州では福岡での開催が圧倒的に多く、大半の市町村の開催件数はひと桁台にとどまっている。
- ・統計の性格上、すべての会議を網羅しているわけではないが、地方都市におけるコンベンション誘致の難しさがうかがえる。
- ・長崎、熊本、佐賀など各地でコンベンション施設計画があることから、コンベンションを持続的に開催していくためにはかなり積極的な誘致活動が必要と思われる。
- ・全国的には旅館単体で国際会議を誘致している事例もあり、既存旅館による展開も考えられる。



全国の国際会議開催地内訳  
(参加者数 200 名以下)

北九州市	17
福岡市	170
久留米市	1
春日市	3
宗像市	1
長崎市	3
熊本市	3
別府市	2
宮崎市	3
鹿児島市	3
名護市	3
沖縄地区	1
恩納村	9
計	219

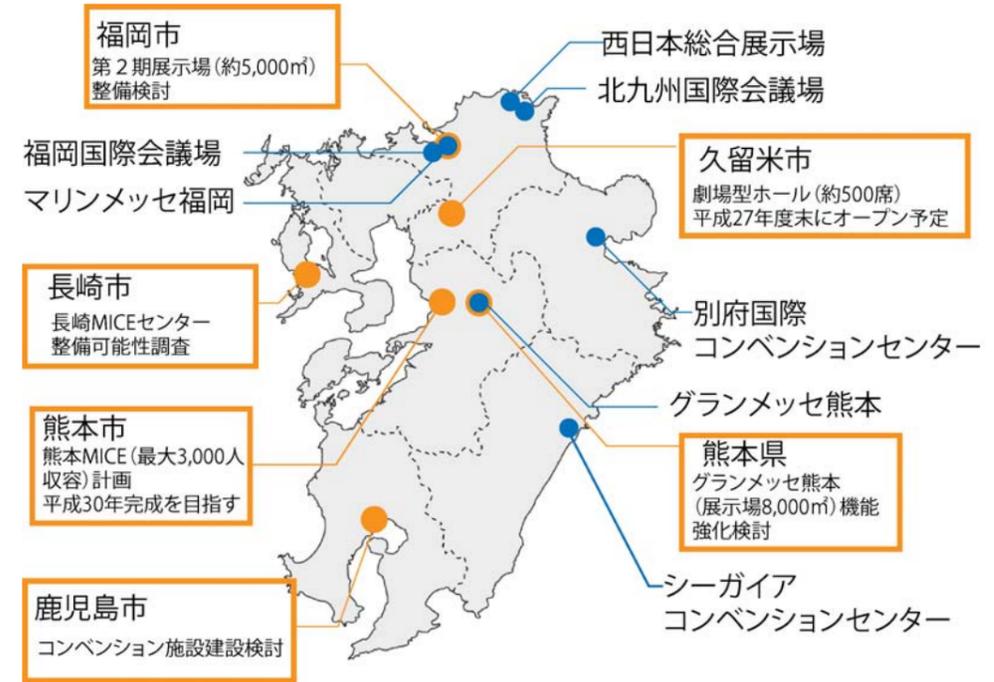
九州・沖縄の国際会議開催数  
(参加者数 200 名以下)

資料：2013 年国際会議統計 日本政府観光局  
対象とする会議：

- ・国際機関・国際団体または国家期間・国内団体が主催
- ・参加者総数 50 名以上
- ・参加国：日本を含む 3 ヶ国以上
- ・開催期間：1 日以上
- ・主催者からの掲載許可を得たもの
- ・企業内会議、大学などの研究機関が行う講義、投資セミナー、観光客誘致を目的とした観光セミナー、学習を目的とする研修会・教室、宗教団体の儀式・集会等は含まない

### (5) 周辺のコンベンション施設計画

- ・九州内の各地でコンベンション施設について計画されている。



### (6) スポーツ系大会・合宿需要

- ・嬉野市内でのスポーツ系の大会・合宿は年間 40 件程度あり、宿泊者数は 6,000 人以上に及ぶ。
- ・野球をはじめ、屋外スポーツが多い。嬉野総合運動公園（みゆき公園）が整備されていることも屋外スポーツが多い理由のひとつと思われる。
- ・屋内スポーツ施設を充実させることで、より多様なスポーツ大会や合宿を誘致することも考えられるが、その場合はより詳細な需要の把握が必要である。

嬉野市におけるスポーツ関係の大会・合宿（平成 25 年度）

	件数	参加者数	宿泊者数
合宿	16	519	2,227
スポーツ大会	20	7,546	3,956
計	36	8,065	6,183

団体種類別	件数
高校・大学	17
連盟・協会	10
地域団体	8
民間企業	1
計	36

県別	件数
佐賀	10
福岡	12
長崎	8
その他	6
計	36

競技種類別	件数
野球（硬式・軟式）	19
グラウンドゴルフ	2
サッカー	2
ソフトテニス	2
その他*	4
不明	7
計	36

\*柔道、なぎなた、剣道、バレーボール各 1 件

## 2. 市内既存施設の概況

### (1) 公共屋内施設

- ・ 嬉野地区内のホールとしては嬉野市公会堂がある。築 50 年以上が経過しており、建替えの検討も今後必要と思われる。駅周辺地区を移転候補地のひとつとすることも考えられる。ただし稼働率は高いとは言えず、施設自体の利用方法や必要性についても検討が必要である。
- ・ 嬉野中心街に位置する 2 つの体育館はいずれも稼働率が高い。老朽化が進んでいることから、駅周辺地区を移転候補地のひとつとすることも考えられる。

#### 嬉野市内公共屋内施設の概要

#### ①ホール

##### ○嬉野市公会堂

- ・ 昭和 32 年（1957 年）開館
- ・ 大ホール（420 名）、会議室（38 ㎡）
- ・ 稼働率は 50%以下

##### ○嬉野市社会文化会館（リパティ）

- ・ 平成 26 年開館
- ・ 文化ホール：463 席
- ・ メインアリーナ：バスケットコート 2 面
- ・ サブアリーナ：14.5×14.5m
- ・ 会議室：7×5m

#### 嬉野市公会堂利用件数

利用件数	ホール		会議室	
	有料	無料	合計	稼働率
	46	82	128	43%
合計	128	142	156	167
稼働率	43%	46%		
利用人員	35,175			



#### ②体育館

##### ○嬉野市体育館

- ・ 昭和 45 年（1970 年）開館
- ・ バスケットコート 2 面
- ・ 稼働率は約 80%と高い

##### ○嬉野社会体育館

- ・ 稼働率は約 90%と高い

##### ○不動ふれあい体育館

- ・ 中心街から離れた地域体育館

利用件数	嬉野市体育館		嬉野社会体育館		不動ふれあい体育館						
	有料	無料	合計	稼働率	有料	無料	合計	稼働率			
	254	94	348	79%	697	27	724	92%	167	5	172
利用日数	285		稼働率	332		利用日数	159		稼働率	44%	

#### ③コミュニティセンター等

##### ○嬉野市コミュニティセンター楠風館

- ・ 平成 16 年開館
- ・ 研修室、和室、調理実習室、トレーニングルーム、浴室、フリースペース、展示館
- ・ 年間利用者数 36,314 人（平成 25 年度）

##### ○みゆき記念館

- ・ ホール、会議室、茶室を備える

#### みゆき記念館利用件数

利用件数	ホール			会議室			茶室				
	有料	無料	合計	稼働率	有料	無料	合計	稼働率			
	42	4	46	15%	42	4	46	14%	6	1	7
利用日数	54			稼働率	52			利用日数	12		

#### 施設写真



嬉野市公会堂



嬉野市社会文化会館



嬉野市体育館



不動ふれあい体育館



嬉野市コミュニティセンター楠風館

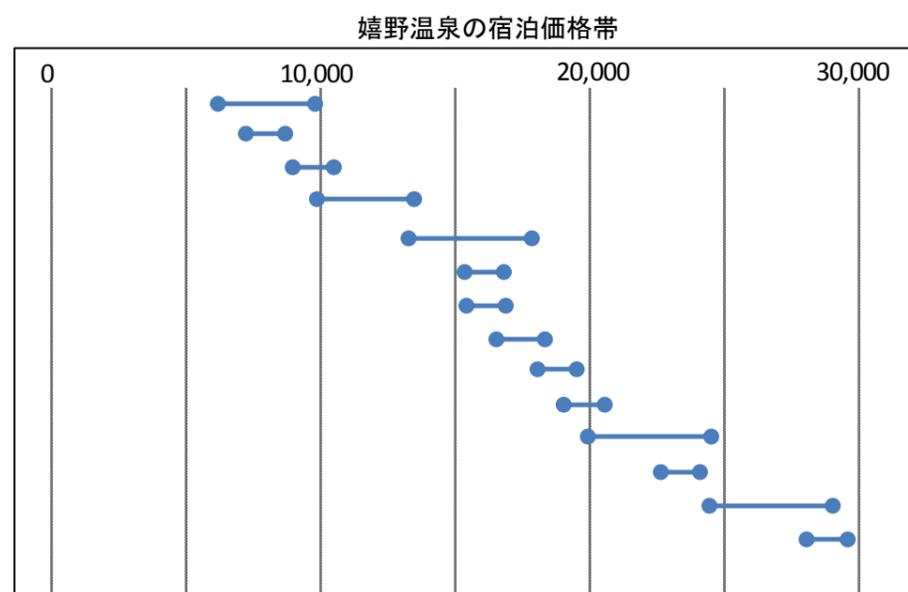


みゆき記念館

\*利用件数は平成 25 年度。稼働率は開館日数を 360 日／年として算定

## (2) 宿泊施設

- ・温泉街の旅館は現在約40軒、総客室数約1050室、収容人員数約4,500人である（嬉野市都市計画マスタープラン 平成24年による）。
- ・ホームページで予約可能なプランはほぼすべて2食つきである。価格帯は6,000円台から30,000円台まで幅があるが、多くは15,000円以上である。
- ・食事のないビジネスホテル系の宿泊施設はなく、この点では駅前地区に立地の可能性がある。



\* 1泊2食、2名一部屋の場合のひとりあたり料金  
\* 5月第4週の土曜の価格

資料: Yahoo!トラベル HP